

日本列島に広がった国民多数の反対の声に挑戦し、安倍自公政権が、こり押しした戦争法。愛媛県今治市では、「9条の会・今治」が「怒りは収まるどころか、廃止へ動き始めている」と決意も新たに世論と運動を盛り上げようと立ち上がっています。

(名越正治)

## 9条の会・今治 愛媛

「海外で戦争する国にさせない」と誓ったのほりがはためく。JR今治駅近くの中心街交差点。2日、「戦争法廃止の国民連合政府を實現しよう」との訴えが響きました。

「9条の会」と今治各界連（平和・民主主義、地域経済と暮らしをまもる今治各界連絡会）の共同宣伝。



「戦争法を廃止させよう」と訴える人たち=2日、愛媛県今治市

14人が参加し、リレートーク。車に手を振ってアピールしました。

クラクションを鳴らす運転者、道行く人からは「頑張ってっくれ」「戦争だけはいいかた」と声がかかりました。「強行後、怒りはますます強くなっているようです」と話すのは同会の大澤守事務局長(33)。安倍首相は「戦争法廃止を許さない」との一点で共同行動が前進しました。7月、日本共産党と民主主義、市民団体が合同宣伝に立ち、8月下旬も、共産、民主、社民の地方議員が勢ぞろいして

相は「寧ろ説明すると言いついていますが、知れば知るほど自衛隊を海外でたたかわせる『戦争する国』づくりは見抜かれている」

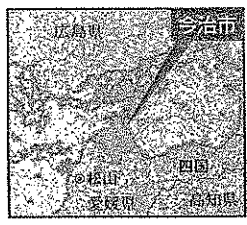
■一点共闘広く  
同市では、「戦争法案許さない」の一点で共同行動が前進しました。7月、日本共産党と民主主義、市民団体が合同宣伝に立ち、8月下旬も、共産、民主、社民の地方議員が勢ぞろいして

「戦争する国」  
許さない

# 空襲の街に響く 戦争法廃止の声

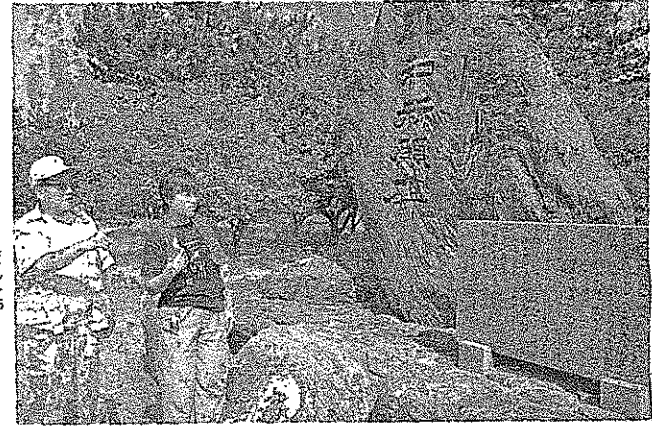
## 体験発掘

## 「歴史逆行させない」



県内では、戦争法を許さないと、一点共闘が広がっています。

9月下旬には、愛媛弁護士会と学者・文化人の会、9条をまもる県民の会のよびかけで緊急集会を松山市で開催。幅広い団体と個人が結集し、共産、民主、社民、新社会の各政党が参加しました。



平和を願う碑の前で話し合う(左から)大澤さんと保持さん=愛媛県今治市

改憲勢力の矛盾もあらわになっています。

改憲・右翼団体の日本会議に所属するある地方議員がいいます。「戦争が前提ではやっぱりあかん。日本は世界に戦争をせんと誓った国。日本会議が攻撃している憲法9条を無理やり壊すことにはない」。日本会議系が主催する講演会への動

員要請がいやで同会議を脱退したり、活動が不活発な地方議員もいるといわれています。

今治市教育委員会は8月28日、安倍首相らが採択を支援してきた、侵略戦争を美化する青銅社の歴史と公民教科書の採択を今回やめ

6日には、「9条の会」と各界連に、今治原水協が合流し、戦争法廃止、核兵器廃絶をアピールしました。「戦争法廃止まで声を上げ続けよう」と9、16、19日と連続して宣伝を計画しています。

今治市は、アジア・太平洋戦争末期の1945年に3度、米軍の空襲を受け、575人の市民が犠牲になりました。県下で最も大きな被害でした。

勤労動員に駆り出されていた多くの生徒たちも若い命を奪われました。同年4月には、今治明德女学校

「これが空襲の被害を拡大したようです」と同分校の代表が「9条の会・今治」の例会(06年11月)で特別報告をしています。

同会代表幹事の保持雅子さん(52)は「私たちの街を守りたいとの願いがなぜ強いのか、よくわかりました。若い人たちに背中を押され、9条の会として、あ

■連続宣伝計画  
6日には、「9条の会」と各界連に、今治原水協が合流し、戦争法廃止、核兵器廃絶をアピールしました。「戦争法廃止まで声を上げ続けよう」と9、16、19日と連続して宣伝を計画しています。

■語り継ぎたい  
新たな事実も見つかりました。8月6日の今治空襲では、2日前に米軍が空からビラをまいて攻撃を予告していました。当時を知る高齢者が「消防団らしい人がビラをかき集めて持ち去った」と生徒らに語りました。

「地獄のビルマ戦線から生還したという94歳の男性。1946年春に帰国した直後、市役所から「遺骨が届いたので受け取りにくるよう」と連絡がありました。所属の中隊が全滅したため、「戦死」とされても仕方がない過酷な体験だったと打ち明けました。

「家族にも話したことがなかった体験を口にした年配者が多く、家族から『この話は初めて聞いた』と喜ばれました」と藤田さん。

「歴史を逆行させ、戦争法を強行した安倍政権を打倒し、一致する政党や団体、個人が共同して『国民連合政府』をつくらうという共産党の提案は、私たちも大歓迎です。地域で奮闘していきなさい」

同市にある今治明德高校天田分校は2002年から、平和学習を始めました。「郷土への空襲を通じて戦争や命の重さ、憲法を考えよ」と後輩たちが熱心に学んでいます。

(現今治明德高校)に爆弾が直撃し、校長ら5人の教職員と生徒4人が亡くなっています。

「診察した方の表情から、話をしてもうえる」と判断しました。同会代表幹事で医師の藤田敏博さん(65)は話します。改めて患者に連絡し、「じゃ、頑張っていいよ」と心した人を訪問しました。

「戦争は何だったのかを問い続けようと、戦争体験を聞いて回りました」といいます。

戦争体験を話した市民は110人を超えました。同会は09年11月、12年11月と冊子「私の戦争体験 語り継ぎたい平和のために」を発行します。

藤田敏博さん